



これからの林業

～ 持続可能な林業に向けて ～

●現在の林業



●新しい林業（目指す姿）



新技術の活用による
低コスト化

エリートツリー導入
等による低コスト化

エリートツリー
「成長が優れた木として選抜された「精英樹」のうち優良なもの同士的人工交配等を行って得られた個体の中から、より成長等が優れたものを選抜して得られた、第二世代以降の精英樹」

資料：林野庁「林業経営と林業構造の展望②」（林政審議会（令和2年11月16日）資料3）をもとに作成。値は施業地1ha単位の試算。

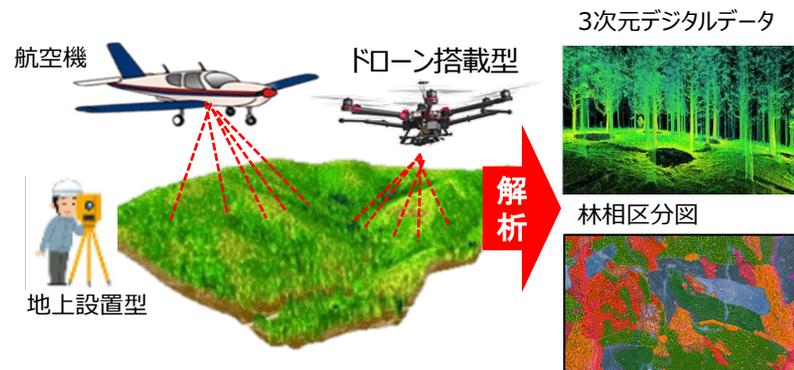
新しい林業（目指す姿）

新技術の活用による低コスト化

● 林業機械の自動化・遠隔操作化



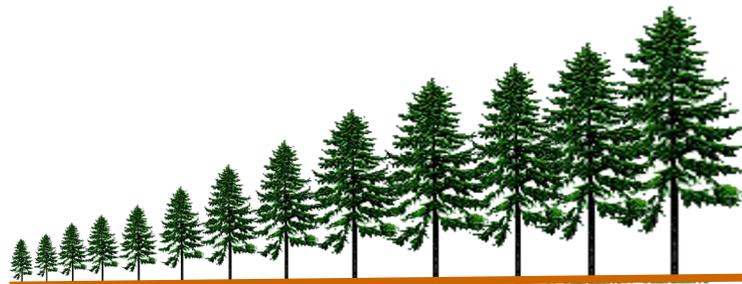
● レーザ計測による資源情報の把握



エリートツリー導入等による低コスト化

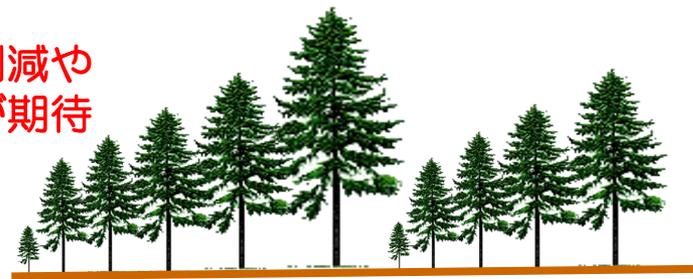
- ～ 伐期短縮も可能に
- ～ 標準的な伐期（50年→30年）

- * 伐採・造林の一貫作業による作業の効率化
- * 低密度植栽で、植える手間とコストも縮減



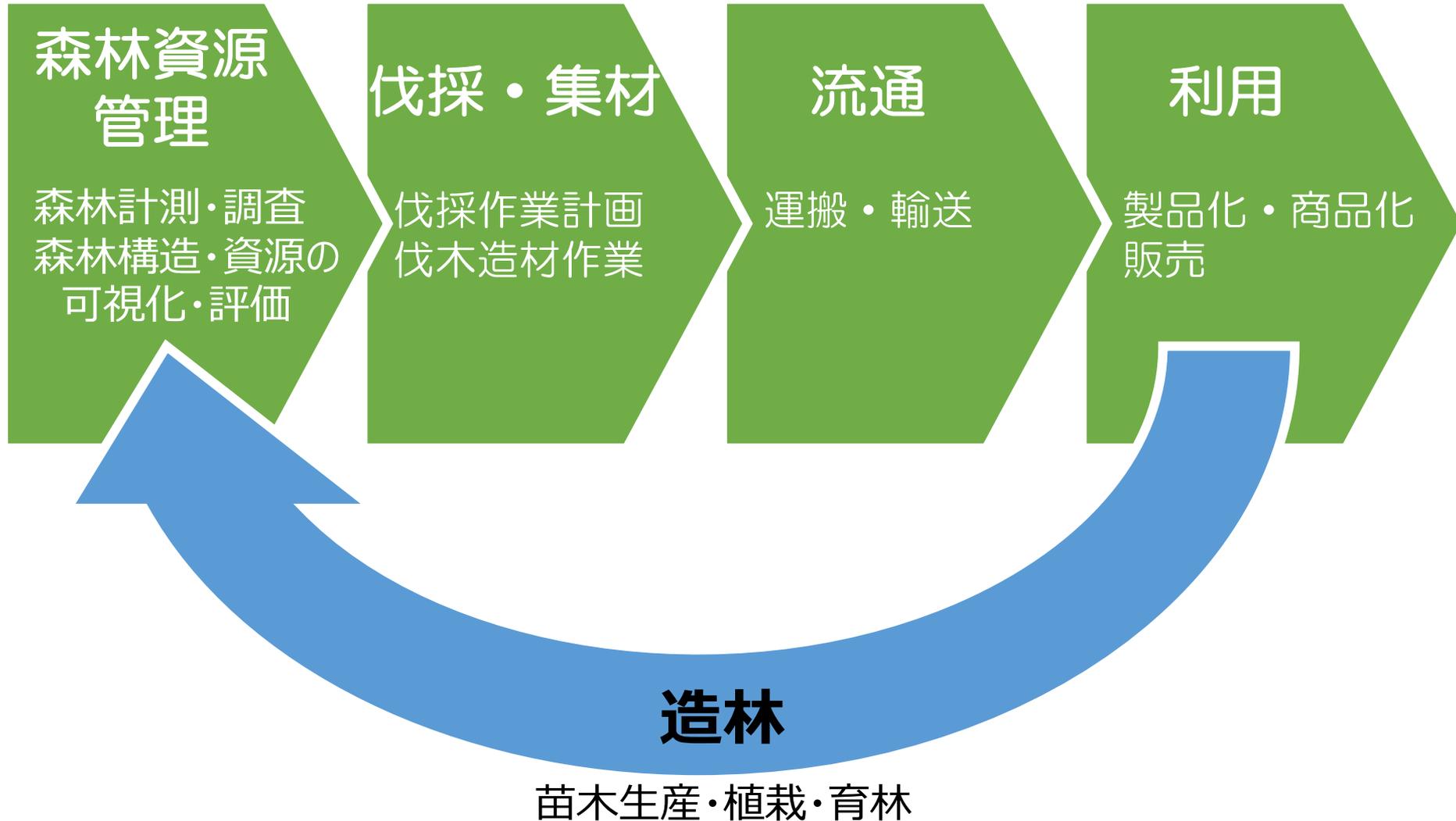
従来品種

下刈り回数の削減や
伐期の短縮等が期待



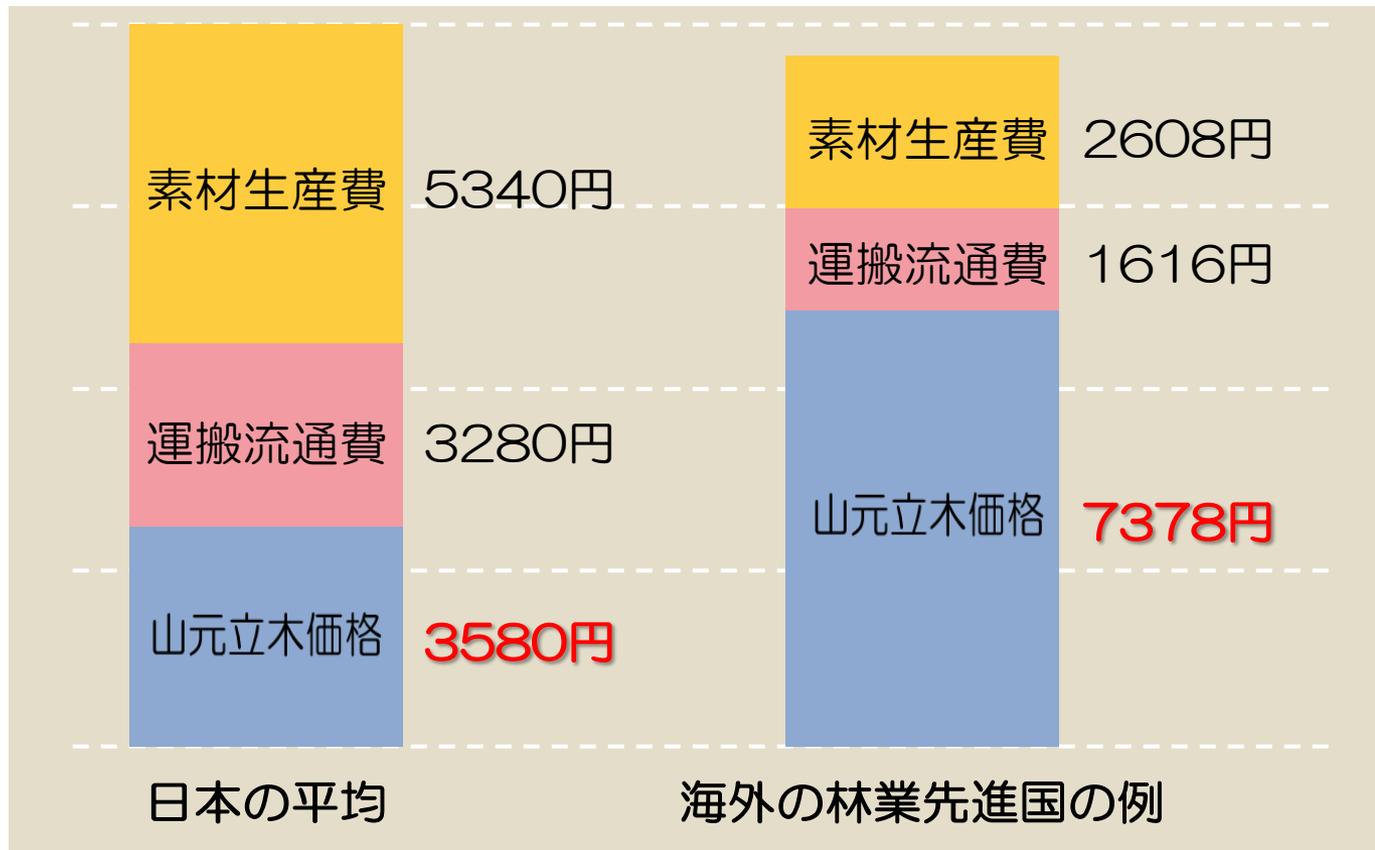
エリートツリー

持続可能な事業サイクルの実現へ



持続可能な事業サイクルの実現へ

丸太 1 m³のコストの内訳



出典：森林総合研究所「林業のいまを知りたい」

この収益性のままでは、再造林は難しい！

儲かる（稼げる）林業をつくる 持続可能な林業経営

そのために

林業・木材産業を見える化すること
それが、スマート化・ICT林業の姿

これからの林業

供給側



基本情報

どの山の
どのような地形に
どのような木材が
どのような状態で
どれだけの量あるか

森林資源の
見える化

森林経営計画

どの山から
いつ
どのような木材を
どれだけのコストを
どれだけ出すか
その収益性は

生産・在庫・流通の
見える化

需要側



基本情報

どの需要家が
いつ
どのような木材を
どのくらいの価格で
どれだけ必要か

需要の
見える化